



時を越えて

第1回学童疎開体験事業 感想文集

令和4（2022年）年度

公益財団法人対馬丸記念会

対馬丸記念館

第1回学童疎開体験事業感想文集

【もくじ】

参加者一覧	1
本研修スケジュール	2
児童感想文（順不動）＊文章は児童の感性を尊重し、原文のままです。	
城北小学校 川満由真	3
城西小学校 金城知明	4
松川小学校 新里結愛	5
若狭小学校 伊波鶴佳	6
若狭小学校 花城由來	8
真和志小学校 大田弥希	10
真和志小学校 中島大和	11
金城小学校 上原そよ	12
曙小学校 山田世泳	13
那覇小学校 富名腰怜	14
安謝小学校 柴田玲	15
城東小学校 上間莉優	16
城西小学校 財津絆	17
城西小学校 饒平名桔梗	18
城南小学校 藤綾乃	19
開南小学校 清家蒼生	20
開南小学校 西田多聞	21
垣花小学校 賀数凜空	22
高良小学校 メクラーフレン暁	23
銘苺小学校 桂大智	24
同行記 事務局長 島袋貞治	25
総括 学芸員 外間功一	27
総括 学芸員 堀切香鈴	29
やーさん体験レシピ	31
本研修記録写真	32

第1回学童疎開体験事業

参加者一覧

学校名	学年	しめい 氏名
城北小学校	5	かわみつゆいま 川満由真
城西小学校	5	きんじょうちあき 金城 知明
松川小学校	5	しんざと ゆ め 新里結愛
若狭小学校	5	い は た づ か 伊波鶴佳
若狭小学校	5	はなしろ ゆ ら 花城由來
真和志小学校	5	おおた み つ き 大田弥希
真和志小学校	5	なかじま や ま と 中島大和
金城小学校	5	うえはら そ よ 上原そよ
曙小学校	5	やまだせよん 山田世泳
那覇小学校	5	ふなこ しいい 富名腰怜
安謝小学校	6	しばたれい 柴田玲
城東小学校	6	うえまれいゆ 上間莉優
城西小学校	6	ざいつきずな 財津 絆
城西小学校	6	よ へ な き き ょ う 饒平名桔梗

学校名	学年	しめい 氏名
城南小学校	6	ふじあやの 藤彩乃
開南小学校	6	せいけあおい 清家蒼生
開南小学校	6	にしだたもん 西田多聞
垣花小学校	6	かかずりそら 賀数凜空
高良小学校	6	めくら ー ふ れ ん メクラフレン あかつき 暁
銘苧小学校	6	かつらたいち 桂 大智
対馬丸 記念館		しまぶくろさだはる 島袋貞治
対馬丸 記念館		ほかまかついち 外間功一
対馬丸 記念館		ほりきりかりん 堀切香鈴
対馬丸 記念館		なかもりょうか 中真諒佳
対馬丸 記念館		おおしろしおり 大城志織
対馬丸 記念館		さ さ き し ん じ 佐々木伸二

本研修スケジュール

日程	月/日	開始時間	終了時間	活動内容
1日目	12/26	8:15		泊港 集合
		9:00		泊港発
		9:40		渡嘉敷港到着 (マリンライナーとかしき)
		9:50	10:00	貸切バスにて移動: 港→青少年交流の家
		10:00	10:15	青少年交流の家に到着 (各自で荷物を部屋に移動)
		10:30	11:45	平和学習
		12:00	13:00	昼食
		13:10	15:10	一平和学習一体験プログラム (貸切バスにて移動)
		15:30	17:00	グループワーク (体験プログラムを通じて感じたこと等) 90分
		17:00	17:20	夕べのつどい
		17:30	18:30	入浴
		18:30	19:00	夕食
				<自由時間>
		22:00		就寝
		2日目	12/27	6:30
7:00	7:20			朝のつどい
7:30	8:30			朝食
9:00	11:00			一名所旧跡めぐり一体験プログラム (貸切バスにて移動)
12:00	13:00			昼食
13:30	15:00			グループワーク (体験プログラムを通じて感じたこと等) 90分
15:10	17:50			映画鑑賞
18:00	18:30			夕食
19:00	19:30			夜空を見る会・ひーさん体験
19:30	20:30			入浴
20:30	21:30			【しから一さん体験】家族に手紙を書く
22:00				就寝
3日目	12/28	6:30		起床
		7:00	7:20	朝のつどい
		7:30	8:30	朝食
		8:45	9:00	清掃チェック・荷物移動
		9:30	11:50	グループワーク (3日間を通じた感想など) 140分
		12:00	13:00	昼食
		13:30		青少年交流の家を退所
		13:30	13:40	貸切バスにて移動: 青少年交流の家→港
		13:50	15:00	渡嘉敷村児童との交流
		15:10		フェリーとかしき 乗船
	16:40		泊港 到着	

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

「三日間で感じたこと」

城北小学校5年 川満由真

ぼくは、高速船に乗って渡嘉敷島の青少年交流の家に着いた。高速船に乗って、ゆれが強く、周りに他の船があつて、前島などの島々も見えた。

青少年交流の家に着いて、米田さんから渡嘉敷島の沖縄戦の話を聞いて、渡嘉敷島とざまみ島では集団自決があつて、渡嘉敷島では、三三〇人、なくなった。慶良間諸島は、特攻艇が三〇〇隻かくされていいて、でも、アメリカに特攻艇がバレてしまい、渡嘉敷島では、特攻艇は出なくて、はかいされてしまった。ひとくごうは、海の近くでした。理由は、特攻艇がすぐに特攻できるようにでした。前島は、犠牲者が0人だった。渡嘉敷島で北山（にしやま）八〇〇人が集まり、三〇〇人余りが犠牲となった場所。しかし、白玉之塔という集団自決のいれいひはちがう場所にあります。旧所めぐりでは、根元家という琉球の船長の家で石垣は2段になっていて、敷地には、お宝がねむつていて、でも、ほるとのろいがかかって死ぬと言われている。渡嘉敷島は神社が一つしかない。正月には、住民がそこに集まる。

やーさん体験では、料理に大根の葉っぱがたくさん入っていてとってもヘルシーだと思いました。ひーさん体験では、くもつていて星は見えなかったけど、一四度という寒さでした。しからーさん体験では、手紙を書きました。

三日間で疎開先の子供達があじわつていたことが体験できてよかったと思う。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

城西小学校5年 金城知明

私は、学童疎開体験でとうじの子供たちの気持ちを考えながらグループと話し合う意識をしました。平和学習では、集団自決や映画かんしょう、いせきめぐりについて学習しました。最も心に残ったことは、いせきめぐりの根元家やとかしきビーチについてです。根元家の前には質の良い大きな石がき（ひんぷん）があり、根元家の右側にはそう庫があるが、そこをほるとまものにとりつかれるという、うわさがあることがわかりました。

とかしきビーチでは、ホエールウォッチングを見ることができるとわかりました。昼食ではやーさん体験をするためにとうじのご飯を食べました。ご飯のなかみは、いもやすいとんが多く入っていて量も少なかったのでびっくりしました。また、ひーさん体験では半そで半ずぼんで外にでました。風が強くふいていたのもものすごく寒かったです。

3日目は、世界現状や平和について考えました。世界現状では、ロシアとウクライナの戦争、飛行機のそう音、地球温暖化によるオゾン層のはかいなどいろいろな現状がありました。この3日間の平和学習で、世界が平和になるためには、命のとうとさや、戦争のむごさについて知る必要があることがわかりました。そして、戦争のおそろしさを知るために私たちがかたりつがなければならないと思いました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

松川小学校5年 新里結愛

私は、学童疎開体験で戦争の時の子ども達の気持ちや経験を体験しました。1つ目はよねださんの話です。戦争とは、しんじられないことがあたりまえのように続くことというのを学びました。昔の渡嘉敷島の様子も教えてくれました。2つ目は疎開の時のご飯です。いつもより量がすくなくなっていてぜんぜんお腹いっぱいにはなりませんでした。3つ目はひーさん体験をしたことです。なるべく半そでに近いかっこうで星ざを見ました。夜はさむくでと中でおきたりしました。4つ目は、よねださんの名所めぐりです。家の前に琉球サンゴを使ったまものよけの石がきをたてている所もあればただ石をつんだだけのヒンプンもありました。5つ目は映画かんしょうです。1本目は、戦場に出ないと死刑になるという話がでていてわたしは、死刑になるのはいやだから戦場に行くけどみんなが見ていないすきににげたいなと思いました。2本目はふつうの子どもたちが経験した戦争です。きょうふにおびえながらもにげていくすがたを見て、安心できるひまはないのかなーと思いました。6つ目はどうすれば平和になるかです。わたしは、みんなでたりないのを分け合うことがいいと思いました。昔の疎開をした人はさびしさを経験しながらこごえてお腹もすいてはたらいっていたという気持ちが分かりました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

若狭小学校5年 伊波鶴佳

私は、学童疎開体験でその当時の疎開した人の気持ちを考えながらとかしき島にとまる疎開体験というものに参加しました。とかしき島に行く時の船は高速船だったのでとてもゆれました。とかしき島での1日目は、平和学習をしました。1日目の平和学習は米田さんから集団自決の話の話を聞きました。集団自決は日本兵から手りゅうだんをわたされたり、1つの場所に集められて、命令がくだったら手りゅうだんをばくはつさせて死ぬというものでした。私は、命令1つで多くの人の命がなくなると知って、命はとても大切な物なのに簡単になくなっていくなんてひどすぎると思いました。集団自決のあった山の中にいくと、静かで水の音がし、少し悲しくなりました。2日目の平和学習では、旧跡めぐりや映画鑑賞をしました。昔の人のいしがき、ひんぷんは、お金もちの人とお金がない人で差があるということが分かりました。白玉之塔は、戦争で亡くなった518人をまつっていて集団自決で亡くなった人のいこつもおさめられているということも分かりました。白玉之塔の名前の由来は「忘れじと思う心は白玉の塔に託して、永久につたえん」という詩ということもわかりました。白玉は平和という意味があつてえんぎのいい物だと思いました。3日目の平和学習はどうすれば平和になれるかなどを話し合いました。あたり前のことができること、家族といれることなどいろいろな共通することもありました。やーさん、ひーさん、しからーさんの体験もやりました。やーさん体験では、ごはんの量が少なかったり、味がうすかったりこゆかったりしていました。配られた時の量は少ないかなと思ったけど、おかわりもありました。けど昔の人はもっと量は少なく、調味料もないので味もうすかったのかなと思いました。ひーさん体験では、夜に半そでを外に出て戦争の時の寒さを体験しようというものでした。ひーさん体験の時の気温は、当時の気温よりも高かったのであまり寒いとは思わなかったけど当時は7℃ぐらいでもっと寒かったらたえられないなと思いました。10分間の間、みんなで星座を見たり、遊んだりしました。しからーさん体験では、家族に手紙をかきました。私は、どういうことをしてどう思ったかや、みんなでどんなことをしたかなど、楽しいことなどもかきました。最終日のそうじは、部屋のそうじ機をかけたり、トイレそうじをして、キレイ

にそうじしました。私は疎開体験に参加して、戦争当時の人のごはんのメニューや、量、集団自決の話、親からはなれてすごさみしさなどを味わって、戦争の時は、ごはんもあまりなく、命令は絶対で不自由なくらしだったということをあらためてじっかんしました。なので、これからは、あたりまえにすごしていることや、家族とすごせること、平和に感謝して、戦争が二度とおこらないことをねがい、みんなで協力し、助けあい、武力ではなく、言葉で解決していきたいと思いました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

若狭小学校5年 花城由來

1日目に、とかしき島に行くとき船に乗って行きました。船は高速船だったのでとてもゆれ気分が悪くなりました。最初に平和学習をしました。平和学習では、映画を見て自分たちのグループは、なぜ、白玉之塔という塔の名前にしたの？と思ったり、戦争をした人たちはなぜ人が人ではなくなるのか？と思ったりといろいろな質問を持ちました。1つ目の質問は、中井さんという人の詩をもとにしてつくられたことが分かりました。2つ目の質問は人が人ではなくなることです。私は、人を殺すのがあたり前の生活になっているからだと思います。れいさんはふつうの生活ではないことをしているからだと言っていてとてもいろいろな意見がありおもしろかったです。ごはんの時は戦争のごはんでさつまいもごはんとても塩からい大根のおひたしでした。ごはんを食べたときには、戦争の状態があたまたまにうかんで戦争を少しあじわうことができました。2日目の朝にはさんぼの曲のアラームの音でうきうきでおきることができました。

2日目には名所めぐりで米田さんの話を聞いてびっくりしたことがありました。1つ目は、当時の食べ物話です。その当時は、毒のあるイモリ以外食べれる物は食べていたことにびっくりしました。今は、ソテツの実やカエルは食べていないけれど昔の人は食べていたのでびっくりしました。2つ目は、とかしき島の100%のうち70%が山ということです。沖縄と比べてみると沖縄本島の森林地帯は47%なのであつとう的にとかしき島の方が山が多いと分かります。なのでびっくりしました。夜空を見る会では、残念ながらくもりで見ることができませんでした。ですが、ひーさん体験はしることができました。気温16℃の中半そで10分間外にでました。当時はとても寒かったんだなーと感じました。夜ごはんは、すいとんと麦飯とたくあん、ふかし芋でした。すいとんは、もちのようでぜいたく感が出ました。麦飯はしっかりかみごたえがありおいしかったです。たくあんは少しすっぱかったけれど麦飯に合いおいしかったです。芋は当時は少しとれていたなのでこの芋を戦争の時に食べるのはおいしいだろうなーと思いました。ですが1つ学んだことがありました。いつもは家であたり前のようにおかしを食べていますが、当時は食べれなくあたり前ではないこ

とを学びました。ねむるときには、先生の話をしたり、こいばなをしたりと女子だけの話をしました。1日目はあまりねることができなかったけれど2日目の夜は、きもちよくねむることもできたし、しから一さん体験でも長いけど書くことができました。ですが、夜に下の部屋から「ドンドン」と音がしたりして、3回おきましたがようやくおちついてよくねむることができました。

3日目では、どうすれば平和になれるかなどを話し合いました。今の世界の状態は、ロシアとウクライナが戦争をしていることです。どうすれば平和になれるかを考えてみました。私たちのグループではぶきとぶきで戦うのではなくて、話し合いで解決した方が良いという意見になりました。私の幸せとは、おいしいごはんを食べることやクッキングでおかし作りもいけれど一番幸せなのは家族といっしょで生きていることだと思いました。日々あたり前にやっていることが大切なことだと気づきました。私はこのそかい体験をして日々の生活があたり前ではないことが分かりました。いつもふつうに食べているごはんは戦争の時は食べれなかったのだからこれからはあじわって食べたいと思いました。また、昔のことでまねしたいことがありました。それは石がきのことです。昔の人はしょうらいのために石がきを高くしびんぼうになったときに売って生活をするところをまねしたいと思いました。これからは、今があたり前ではないことに気づき、1日1日生きていることに感謝して生活をしていきたいです。あと、家に帰ったらおかしを食べたいです。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

「3日間の感想」

真和志小学校5年 大田弥希

1日目に、とかしき島にきて米田さんに、戦争についておしえてもらい、集団自決の場所にいき、もくとうしました。

あと、昼ごはんにさつまいもごはん、だいこんのはっぱを食べました。すごく、おいしくなかったです。

おふるみんなで、入るのが楽しかった。

2日目は、とかしき島の名所めぐりにいきました。ビーチにいたり、石垣をみにいたり、白玉のとうにいき、またもくとうしました。石垣をみにいったときに、その家は、昔金持ちのだったらしいので、宝がねむっているのかなーと思ったら、ほったら、呪われると言われたので、ほるのをやめました。とかしき島のビーチのすなは、すごくさらさらでいしが黒くて、平たかった。ビーチで、くじらがみたかったです。えいがをみて、昔は、子ども、戦争に参加しているのは、やばいと思いました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

真和志小学校5年 中島大和

初日、フェリーにのったけど思ったよりゆれがおおきかった。だから全然ねれなかったです。そして、みんながキャーキャーいっていてもっとねれなかった。そのあと、貸切バスでとかしき青少年交流の家に行った。思ったよりへやはせまかった。だけど、ルールがきびしくてまじかってなった。しかもその話も長かった。ごはんはさつまいもごはんとかだいこんの葉っぱ。まあまあおいしかった。でも、だいこんのはっぱはにがかった。そして、みんなのこうどうがはやかったからねるまえに3時間自由時間があった。みんなでまくらたたきとか、まっくらにしておにごっこしたり先生がくる直前でふとんに入ったりおもしろかった。それで、いいふとんがあって、そのふとんをじゃんけんで決めてボロ負けした。

二日目、朝食がバイキング、ラッキー。でも食欲がわかかなかったけどみかんだけ9個たべれた。そのとき、バイキングラッキーと思って、おなかがすいていないことに気付いた。そのあと、映画をみたが、1つ目はと中でねそうになった。でも、もとごきょうたいの人がいろいろなことをなきながら話してくれてありがたいと思った。2つ目は、ネタバレするとかわいそうと思った。なぜなら、学校の友だちと戦争の時に走り回って最後自分一人になってしまった。ウミガメの卵をみるというやくそくをはたせないまま友だちが死んでしまった。そして、友だちとあそんでいたどうくつにかくれ、その砂はまだウミガメが卵を産んでいるところをみつけてその卵をほり大切にしていたのに、1回卵をつぶしてしまって1回たべたらおいしくて全部たべてしまった。そのあと、みたあとのかんそうかくと思ったら、もんだいみたいなやつをだされた。そして、ひーさんたいけんで、自分のはだぎででて、あんまさむくなかった。そしてごはんをたべて、ふろに入ったらぬるかった。そしてねた。3日目どうすれば平和になるかを考えて、にもつをせいりした。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

「三日間の学童そかい」

金城小学校5年 上原そよ

わたしは、十二月二六日から学童そかい体験をしました。とかしき島に行くために、高速船の船にのったけど、波が大きくて、とても船がゆれたので、少しよいました。お昼ごはんは、やーさん体験のために、お米と香物がありました。香物（大根の葉）は、塩分がとてもあって、すっぱかったです。お昼ごはんを食べたあとは、米田さんのお話を聞きました。米田さんは、お母さんが体験した戦争のお話をしてくれました。その中に、集団自決のお話があり、着物の帯で（家族や身近の人といっしょに）結んで、しゅりゅうだんで集団自決するということが、これでたくさんの人がなくなったんだな、と思って、少しこわかったです。十二月二七日（二日目）は、戦争に関する名所や、神社などに、米田さんといっしょに行きました。最初は、根元家に行きました。そこは、ほってはいけない、ほったらバチが当たる、という倉庫がありました。また、特攻艇秘匿壕というところにも行きました。島の女子青年が石を運び、あなをつくっていたそうです。最後に行ったのは、白玉之塔です。「白玉」の由来は、中井さんがかいた詩の中にふくまれていたからだそうです。えい画で、少年（14～16さい）で兵隊に出された人の話をきいて、子どもなのに戦争というものを体験して、かわいそうという気持ちと、少しこわいな、という気持ちになりました。夕食を食べて、夜空を見る会（ひーさん体験）をしました。夜は、風がふいてなくて、寒くはなかったけど、戦争の時は、寒かったんだな、ということが分かりました。十二月二八日（三日目）は、どうすれば平和になるかをグループワークしました。私は、国と国が協力したり、仲良くなったりしたら、平和になるのかな、と思いました。少し難しかったので、家でも、平和について考えてみたいな、と思いました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

「3日間の思いで」

曙小学校5年 山田世泳

ぼくは、自由時間をいっぱいほしかったけど、フェリー乗ったり、ごはんをグループで食べたり、入浴に入ったり、遊んだり、みんなで部屋でいっしょにねたのが楽しかったです。

とかしき島では、いなかだと、思っていたけど思ったよりいっぱい観光客がいたのでいなかでは、ないと、思いました。

バスでいろんな所に行って海で写真をとったり、海の景色を見たり、砂岩があったりしていろんな経験になりよかったです。

夜になったら自由時間でレスリングしたりレポートをしたりかくれんぼをしたり、おにごっこしたり、まくら戦争をしました。

夜の入浴では、みんなでお湯かけもしたりしてバシャバシャするお風呂になりました。入浴が終わった時は、星を見ようって思っていたけどくもりだったから雲で星が2つぐらいしか見つけられませんでした。

夜は、いっぱいこうふんしていたから夜は、あんまりねないで遊んでいました。それで朝おきたらはみがきや、ふとんや、シーツをたたんだりしていました。

一番覚えた事は、「やーさん」「しからーさん」「ひーさん」を覚えました。意味も覚えませんでした。自分が覚えたから頭がいいなど、思いました。

平和は、戦争もなくて、けんかもしないで幸せな事ができるからとても平和に感じました。平和は、人と、人を思いしる事が知りました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

那覇小学校5年 富名腰怜

そかい体験をして1日目はたくさんべんきょうしました。米田さんのはなしをききました。集団自決の話やとかしきじまのせんそうのはなしをききました。一番印象にのこったのは、沖縄戦でゆいいつこうげきをうけなかった前島というばしょがあつてこうげきをうけなかったりゆうは前島のえらい人がここにはこないでくれと日本兵にいつて日本兵がこなくつてきちなどをつくらなかつたからアメリカがせめてきたところに日本兵がいないおかげでこうげきをうけなかつたといつていてアメリカ兵はてきの日本兵がいるところしかおそわないことがわかりました。おひるごはんはいもごはんとだいこんのはっぱのおひたしでした。いもごはんはおいしかつたけどだいこんのはっぱのおひたしはしおのあじがこくてぜんぜんおいしくなくてはきかけました。おふろは一人一人へやがあるとおもつてたけどおんせんみたいなかんじだつたのがいやでした。おんせんはあつたけどぬるかつたです。

二日目はまたべんきょうざんまいでした。えいがかんしょうたのしみだつたのにかんそうかかないといわれたのでおわつたと思ひました。名所めぐりは一日目のべんきょうよりはたのしかつたです。朝食がバイキングだつたのがまだうれしかつたです。二日目は一日目よりべんきょうがすくなかつたけど作文かくのがおおすぎでした。あさいがいそかいさきでたべてたごはんだつたのもいやでした。よるほしみにいつたけどてんきわるくてぜんぜんみれませんでした。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

安謝小学校6年 柴田玲

とかしき島に、平和学習を行いにやってきた。とかしき島は海が最高にきれいで、島の約70%は山に囲まれている自然の島だ。こんな島に、昔戦争が行われたなんて思わなかった。しかし、とかしき島でも悲劇があったのだ。とかしき島の戦争はとんでもないことが起こったのだ。それは、国が命令した指示に従って人が人を殺し合うということだ。その名も強制集団自決。これはとかしき島の悲惨な出来事だった。この事実を教えてくれたのは、母が実際に体験したむす子の米田さんだ。この人は、苦しい思いをしてでも、みんなに事実を語っていく。なぜなら、戦争を二度とくり返したくないから。くり返してほしくないから。だから私は戦争の事実を語っていきたい。

とかしき島には、戦争の悲劇を伝える名所が各地にある。私が印象的だったのは、強制集団自決が行われたところだ。当時のままで残されており、そこに居るだけで、当時の様子が思いうかぶ。米田さんの母の家族がその場所で命を落としたのだ。このことに、むねがちくちくと痛む。

とかしき島で私達が体験したのは、やーさん、ひーさん、しからーさんだ。やーさんはひもじいことを意味し、ひーさんは寒いことを意味し、しからーさんはさびしいことを意味している。私が心に残ったことは、しからーさん体験だ。家族に会えないことがつらいことを実感できた。そして、家族の大切さが分かった。

平和な世界を作るためには、私たちの心がけが大切だ。例えば、戦争のことを語りつぐなどの自分なりに二度と起こさないことを意識するなど。平和がおとずれるのは、戦争を語りついでくれた人がいるから。その恩返しをするために、自分なりの努力をすれば、平和は成り立つと思う。そのことを信じて、私は人生を歩んでいく。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

城東小学校6年 上間莉優

私は、学童疎開体験事業で、いろいろな事を学びました。やーさん体験やひーさん体験しから一さん体験の三つの話を聞き、当時の子ども達の気持ちが分かりました。初日の朝は、船の大きなゆれで、四十五分間、船よいしました。気分が悪くなったけど、青少年交流の家に着くと、テンションが上がって、少しずつ気分も良くなってきました。部屋に荷物を置いたり、新しいグループの人達とも仲良くなることができました。昼食は、疎開のご飯を初めて食べました。味がうすくて、苦くて、疎開のときは、こうゆうのをたくさん食べていたんだなと思いました。米田さんからの集団自決の話も、もくとうも、とても勉強になりました。二日目は、旧跡（名所）めぐりをして、あの時、とかしきに何が起こったのか、どんな意味があるのかなどを知ることができました。夜空を見る会、ひーさん体験では、外は寒くて、疎開をした子ども達は、これより寒い気温の中、半そで半ズボンでがんばったんだなと思いました。ねる時、急にお腹がすいて、とても辛かったです。当時の子ども達も、量の少ないご飯でがまんしていたんだと思いました。三日間も家族に会えなくて、とてもさびしかったです。疎開体験のめあての一つである、しから一さんを体験できたかなと思います。最終日は、皆で協力して朝の清掃をしました。ピカピカになった部屋を見て、心がすっきりしました。また、グループワークでは、どうすれば平和になるかとか、私の幸せ、皆の幸せを共有したり、発表をしたりしました。これをやることで、自分の考えが広がったり、友達の考えを広げてあげたりすることもできました。私がこの三日間を通して、心に強く思ったことは、「残こくで容しゃない戦争を二度と起こしてはいけない」です。そのためにも、戦争のことに関心をもって学んだり、皆と仲良く過ごしたいです。この三日間の疎開体験事業の本研修、いろんな体験をして良い勉強になりました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

「感想」

城西小学校6年 財津絆

私は、37.4度の熱がでて、ほぼ部屋にいました。

部屋では、ひたすら、寝ることでした。とてもひまでした。でも寝ないと良くならないので、寝ていました。みんなが体験できない部屋で夕食を食べました。

2日目も、午後、熱をだして、保けん室で寝ました。2日かん、保けん室で寝たので友達としゃべれなくてかなしかったです。

しかも、ドライヤーが部屋で使えなくて、しょうとう時間にしか、かみをかわかせなくてめんどくさかったです。

しかも、みんながやっていることができなくて、くやしかったし、体験してみたかったです。次このような体験を休まないように、熱をださないように、次ははしゃぎすぎないように、自分でせいげんできるようにしたいです。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

城西小学校6年 饒平名桔梗

3日間の平和学習の中で、最も頭に残っているのは、2日目の映画鑑賞で見た護郷隊の話だ。私達ととしが近い子の話ただけに、強く印象に残っている。

私が今まで学んできたのはひめゆり学徒隊や鉄血勤皇隊などの学徒たちが戦争に参加するものだった。護郷隊はそれとは違い、バラバラに集められたものだった。さらに違ったのは、ゲリラ戦をしかける部隊だったということだ。天皇のために戦うことを教えられてきた上に、お前達の命は鳥の羽より軽い、とか10人敵を殺したら死んでもいい、と言われていたというのが渡嘉敷島の集団自決に次いでショックでした。招集されても行きたくないけれど、ほぼ強制的に参加させられて、参加しなければ処刑するとまで言われていたら参加していたかも、と思った。何より一番おそろしいと感じたのは、友達の死を目の当たりにして何も感じられなくなっていたことだ。戦争は人間が人間でなくなるというけれど、そんな状況におちいって何も感じられない人間に自分になってしまうのが怖かった。

学童疎開体験で中心となるのがやーさん、ひーさん、しからーさん。私はしからーさんが一番感じられたかな、と思う。家族に会いたいではなくても、家のふとんで寝たいとか、2日目くらいからどんどん家に帰りたくなってくる。修学旅行とは違ってずっと勉強をしているから、家に帰って休みたい気持ちが大きい。コウさんも言っていたけれど、それは平和で便利な世の中だからできることであって、戦争になって今よりひどい状況になったら、絶対に耐えきれないだろうと思った。

今回疎開体験で学んだことは、今まで学校で習ってきた戦争とは違うところがたくさんあって、戦争についての考え方が変わった。これからまた平和学習があるときに、今までと違う視点でみることができるようになればいいな、と思った。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

城南小学校6年 藤彩乃

一日目は、6時半におきて船に乗る場所（とまりん）にめっちゃ早くついて先生も一人しか来てなくて気合い充分だなと思いました。そして、皆来てから船に乗ってゆれが強くてジェットコースターみたいで楽しかったけどゆれで気持ち悪くなっている人もいた。とかしき島についてすぐに、バスに乗って青少年の家に行くととかしき島での初めての平和学習をして話は米田さんがしてくれて米田さんのお母さんの話で一番印象に残ったのが家族で殺し合ったと言う話で集団自決で死ねなかった家族で刃を持って殺し合っていて私だったらそんなことできないと思うししたくないからそれを平気でやっているのをきいたからやっぱり戦争は人が人でなくなるのが分かってこわかったです。それでコウ先生になぜ戦争がおきるのか聞かれて答えられなかったけど一番思ったのが戦争はおこしてはいけないものだと思います。やーさん体験で疎開時のごはんを食べて少なくていつもとちがっていました。

二日目は、米田さんと名所めぐりに行って最初に根元家の石垣について石垣について学んでお金持ちの家の石垣はすきまがなくで高い石垣で貧乏な家の石垣はすきまがあいていてハブにとってのすみかになっていて最高の卵が産める場所らしくてその家のねてる人にハブがかみついたことがあったらしいです。だから、昔の貧乏な人は家でも危険だったんだなおもいました。2ヵ所目は、とかしき神社についてそこは、とかしき島唯一の神社らしくてとかしきの人は、初もうででここにきてるみたいです。とかしきビーチでごうを見ました。その後、海について写真をとりました。最後に白玉の塔についてもくとうをしました。

三日目は、自分たちの幸せについてかんがえてグループワークでグループごとに意見をこうかんして他のグループは色々なことをかいていてすごかったから私もまねしたいと思いました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

開南小学校6年 清家蒼生

私は、学童疎開体験で当時の人の戦争のつらさを痛感しながら疎開体験をしました。

とかしき島に行くときは、はだ寒く、まさに当時のさむさなみでした。一番最後に来て、船にのるとなんとスゴくゆれてしまったのです。心臓がつぶれそうないきおいで波がゆれていて、しーおーさんというカワイイ先生に手をつないでもらいました。(つないでなかったらおわってました…) とかしき島について青少年の家につくと、最初は米田さんというおじいさんととかしき島でどういう悲劇があったのか話してもらいました。その話を聞くと、あんなにキレイ！でちょっとさむいとかしき島にそんなことがあったのはおどろきです。その後はふろ、そしてごはんをやーさん体験を(昼の時だけ)しました。

あとは旧所めぐりをして映画を見ました。旧所では、戦争でなくなった人がまつてあるところに行き、映画では、実際の“護郷隊”という秘密の部隊にいた人のドキュメントとウミガメと少年というアニメを見ました。2つとも戦争に関連する映画で戦争やゲリラ戦のムゴさをえがいていて、とてもつらかったです。戦争で人が人でなくなるっていうのは自分自身も気づかなくてちょいしからーさん体験をしました…。映画を見た後は、さいごのごはんとふろをやって、しからーさん体験をしました。ちょっとさびしかったです。あと、ひーさん体験で星空を見る会で、歯をふるわせて「さむいさむい」と言いました。

この2つが終わったあとは部屋でねるということになったけど、なかなかねれなかったの
で紙に絵を描いたり、だれかさんが共食い？しようとして戦いをしました。ちょっとねるのはおそくなったけど、私はあのグループでよかったな～？と思います。

私はこの疎開体験をして、戦争や平和について関心をもって、これからも戦争ではなく平和！！を大切にして、生きていきたいです。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

開南小学校6年 西田多聞

とかしき島は楽しかったです。一番楽しかったのは、友だちと一緒にごはん食べたり、入浴したり、一緒に船にのったりお話をしたりしたことです。あと、ごはん7食のうち、4食は昔のごはんだったけど、とってもおいしかったです。

けしきも海もキレイで、いい所でした。しょ日は、船にのったけど、ゆれすぎて気持ちわるくなりました。自然が豊かで、空気がよかったです。

自分は全然ねむれないので、早く家に帰ってねむりたいです。だい根の葉っぱは、苦すぎた。2日目のぞうすいはうまかったです。すいとんは、粉みたいで、おいしくなかったです。おふろはあったかくて寒さがふっとびました。あと3食は色々なバイキングで、おいしかった。

自由時間では、まくらなげやレポート、あと社会の現状を話すのも楽しかった。

ふとんは、1日目はやわらかかったけど、あんまねむれなかったし、寒かった。2日目は、そこそこねむれた。つかれがたまったのだなーと思いました。

楽しい旅行でした。夜空を見たらくらくて寒かったです。昔の子供はこれより寒さを味わったのだと思うときついと思いました。

バスは、色んなところを回ったのでいろいろな景色が楽しめました。

あまり人がいなくて、さびしいと思いました。

平和について考えたけど、なんで悲しく人が死んでしまうのに、やるのかなと思いました。

戦争は人が人ではなくなってしまい、人のことを考える余ゆうがなくなってしまうからおこしたくないです。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

「三日間の研修」

垣花小学校6年 賀数凜空

十二月二十六日から始まった学童疎開体験で、たくさんの経験をしました。

まず、一日目の朝、泊港から高速船に乗って渡嘉敷島へ行きました。高速船はジェットコースターみたいに速くてよかったです。

そして、お母さんが戦争と集団自決を体験した米田さんのお話を聞きました。米田さんは「基地や軍がない島には、敵はこうげきしてこない。」とっていました。これを聞いて、「日本軍がいるからアメリカ軍は戦う、そして死者がでるんだな」と感じました。

疎開時のご飯を再現したごはんを食べて、大根の葉のつけものが、塩辛くて、これを毎日のように食べるのは大変だなと思いました。

二日目は旧跡めぐりやひーさん体験をしました。午前中は旧跡めぐりで、「根元家の石垣」「特攻艇秘匿壕」「白玉之塔」へ行きました。

根元家の石垣は、村指定有形文化財に指定されていて、高い石垣（ヒンプン）がたてられていて、米田さんの話を聞くと、根元家は、琉球と中国の貿易船の船長でそのおかげで、高い財力があつたそうです。

特攻艇秘匿壕には、2つの特攻艇があり、特攻艇は「マルレ」と呼ばれていました。この壕は黒色千枚岩というかたい岩を朝鮮人や少女、青年がほって作られたそうです。

白玉の塔には、戦没死者五一八人の遺骨と名前がきざまれています。「白玉の塔」という名前は中井さんの詩がもとになっています。白玉には、永遠に忘れないという意味がこめられていて、白玉の塔には、「戦没者のことを永遠に忘れない」という意味が込められています。

夜はひーさん体験をしました。ですが、皆は寒いと言っていたけど、自分はあまり寒いと感じませんでした。

三日目は、平和についてのグループワークと、この作文を書いています。この三日間を通して、沖縄戦や渡嘉敷で起こった集団自決、疎開について詳しくなることができました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

「三日間の平和学習」

高良小学校6年 メクラフレン晁

ぼくが、この三日間の平和学習で分かったこと、思ったこと、感想で言いたいことは一日の平和学習の時、ぼくは、集団自決のことなどで思ったことは、ぼくは、第二次世界大戦の沖縄戦のひどさ、悲しさ、苦しみは分かっていたと思っていたけど、沖縄戦は集団自決をする人がいると思っていませんでした。

二日目は、やーさんとひーさんとしからーさんの体験で思ったこと、分かったことはやーさんの体験でごはんの少なさや、苦しさが分かって、ひーさんのさむさも分かりました。

ぼくは、この学童疎開体験学習や、平和学習で分かったことは、対馬丸の子どもたちはすごく苦しんだことと、すごく悲しくて、親からもはなれたことも分かりました。

ぼくが、感想で言いたいことは、対馬丸の子どもたちと、渡嘉敷島の人々はすごく苦しんでいたと思いました。

ぼくはこの学童疎開体験での平和学習で、六年間放置された三百人の集団自決や、白玉之塔のことなどが分かってぼくは、すごく悲しいです。

ぼくは、この体験で分かって思ったことは、戦争で勝利ということはない、戦争はみんなを苦しめるもの、戦争では、みんなが負ける、みんなが苦しむことって分かりました。

渡嘉敷島疎開体験本研修 感想

「学童疎開体験」

銘苧小学校6年 桂大智

学童疎開体験で十二月二十六日にとまりんに集まりました。

まず渡嘉敷島に行く船に乗りました。小さな船で行きました。船はとてもゆれてジェットコースターみたいでした。

つぎに平和学習を受けました。平和学習では米田さんが集団自決の話をしてくださいました。米田さんの話をきいたあとに、集団自決跡地に行きました。集団自決跡地は、思っていたよりも森の中でした。集団自決では、三百三十人がなくなりました。三百三十人のうち百人が10才以下の子供たちでした。

次の日は、名所旧跡めぐりをしました。中でも心に残ったのは、白玉のとうです。白玉のとうでは、集団自決でなくなった人をまつっているところです。

つぎに昼食をたべました。昼食はやーさんたいけんであまりおいしくないごはんでした。

つぎに映画鑑賞をしました。護郷隊という、十四才から十七才の少年たちがやんばるのジャングルでゲリラ戦を行うふたいです。友だちが死んでも何も感じないことがこわかったです。

つぎにひーさん体験で半そで半ズボンで夜、外に出ました。その時の気温は十六度で疎開先の熊本は大雪で七度だったそうです。それにくらべると温かいけど当時の沖縄の人はまずしかったから、おそらく半そで半ズボンだったのではないかと思います。そうかんがえると、疎開の子どもは、とてもさむかったと思います。

ぼくは、この体験を通して、平和の大切さと、昔渡嘉敷島でおこった、集団自決、学童疎開のことを学んで戦争はあつてはいけないと思いました。

渡嘉敷島本研修同行記

学童疎開を追体験、やーさん、ひーさん、しからーさん 平和の尊さを実感

公益財団法人対馬丸記念会

事務局長 島袋貞治

子どもたちが元気よく船に乗り込み、保護者や関係者たちが手を振って見送った。対馬丸事件が起きた79年前も、きっと同じような光景だったのだろう。12月26日、那覇市の泊港から高速船「マリンライナーとかしき」が出港した。行先は渡嘉敷島。那覇市内から自主応募で集まった児童20人による2泊3日の疎開体験事業の本研修が始まった。学童疎開体験者が身をもって味わった「やーさん（ひもじい）、ひーさん（寒い）、しからーさん（さびしい）」を追体験し、戦争の愚かさと平和の尊さについて考えを深めるためだ。乗船時間は約40分。航路の波は高く、当初はしゃいでいた20人も時間の経過と共に口数が少なくなった。

渡嘉敷港に着くと、研修の主会場となる国立沖縄青少年交流の家にバスで移動した。宿泊手続きを受け付けたり、研修室を備えたりする「管理研修棟」が玄関口となる。その建物は3階建て、横長の形状。「対馬丸みたいだ」。児童の1人が管理研修棟を見つめて言った。

研修では、島内のフィールドワークと座学を主に重ねた。初日と2日目、島の平和ガイド、米田英明さん（74）を講師に、渡嘉敷島で1945年3月28日に起きた「集団自決」（強制集団死）など島の沖縄戦に関する歴史を学び、関連する戦跡を巡った。児童同士で議論を重ねていく座学では、児童らも気の緩みなどから私語も増えがちな場面もあったが、集団自決跡地などの戦跡では神妙な表情で米田さんの話に耳を傾けていた。

米田さんの母親は「集団自決」の場を目の当たりにした経験者。母親は体験を語れるようになるまで戦後約60年かかったという。母親が生き抜いたからこそ、米田さん自身が今平和について語るができることと児童らに強調し、「命（ぬち）どう宝だ。

皆さんが渡嘉敷を訪れ、感じたことは大切。平和への一步にしてほしい」と呼びかけていた。

座学では、ゲリラ戦などに動員された少年兵の「護郷隊」に関するドキュメント映像作品を鑑賞した後、「もしも自分が召集されたらどうするか」「戦死した人の遺族が訪ね、当時の状況を聞きたいとお願いされたら、話せますか」などのテーマで、戦争に動員された立場について思いを巡らせた。

2日目の夜、父母や家族、保護者向けに手紙を書く時間もあった。「お母さんのごはんが食べたい」「集団自決はいやだ」などと記していた。

この日夜の気温は14度ほど。児童らは防寒着を脱ぎ、半そでなどの軽装で、星空を観察した。78年前、学童疎開した児童らが九州で体感した冷たさには及ばないが、体験事業の児童からは「寒い」「早く中に入りたい」などと叫び、終了時間になると足早に建物に入った。

7回の食事中、4回は疎開時を再現したメニューだった。初日の昼食は、サツマイモ入りのごはんと大根葉のあえもの。2日目昼食はサツマイモと大根葉入りの雑炊で、同夜食は麦ごはん到大根とかぼちゃのすいとん。最終日昼食は、かぼりゃ入りご飯とみそ汁、白菜の漬物だった。別の回のメニューと比べて粗食であることに対して、児童らは「物足りない」など不満を口にしていた。

最終日には、座学で「世界の現状」「どうすれば平和になるのか」「幸せとは」というテーマで議論を締めくくった。戦争だけでなく、差別や地球温暖化の問題なども指摘し、命の尊さや戦争のむごさを知ることで平和にアプローチできるとした。それぞれの描く「幸せ」について、「ご飯を食べられること」「学校に行けること」「静かに眠れること」などと児童らは提案していた。

いまだ世界では紛争が絶えず、子どもが犠牲になっている。疎開体験事業を通し、20人が「平和とは」をじっくり考え、自分や同じ研修仲間に関わり、その答えを口にした。対馬丸記念館から発信されるメッセージが世界の人々と共有され、実現されることを願っている。

みんなの心に

公益財団法人対馬丸記念会

学芸員 外間功一

今年もさわやかな春がやってきました。時間が経つのは早いもので、初めて顔を合わせたみなさんは寒い冬を超えて、卒業・進級を迎える春ですね。そんないつもの年の流れの中ですが、たくさん出会い、経験し、気づきがあったのではないのでしょうか。また、事前研修や本研修、事後研修で多くの事を学べたと思います。それはみなさんの心がやわらかでいつも目をキラキラさせながら学童疎開体験の出来事を吸収したからだと思います。

2022年11月23日の事前研修初日、初めて会ったみんなはどんな気持ちだったでしょうか。ワクワクしていましたか。それとも、どんなことをするのか不安だったでしょうか。もしかしたら両方の人もいるかもしれませんね。でも、みんなの心の中にはしっかりとしたものを持っているように見えました。実際、おしゃべりをしていても「お話を聞いてください。」と言うと、すぐにおしゃべりを止めて集中してくれたり、「作文なんて書けない。」と言いながらも、最後には感じたことや考えていたことをちゃんと文章にしてくれていましたね。

みんなの個性はそれぞれ違います。それは学童疎開体験中の話し合いで様々な意見があったことからわかると思います。事前研修初日の質問「タイムスリップして対馬丸が沈むとわかっているけど、疎開のために対馬丸に乗りますか。」という質問に対して「海で死にたくないから乗らない。」「友達がいなくなるのは寂しいから一緒に死ぬ。」などの意見がありました。この1つの質問だけでも個性というのは1人1人違うんだと分かります。そんな違った個性が20人も集まり、平和や戦争、命について考え、自分の意見を発表し、他人の意見を聞いて、話し合いましたね。このことはみんなにとって、

とても良い経験になったのではないのでしょうか。

個性が違うということは考え方や意見が違うということですね。同じ那覇市に住んでいるのに違うんです。それなら名護の人とはどうでしょう、東京の人ならどうでしょうか、中国人やアメリカ人とはどうでしょう。恐らく、平和や戦争についての意見はみなさんと全然違うものを持っているでしょう。戦争が起きることの原因の1つとして個性の違いからくる、意見や考え方の対立があります。この対立を防ぐためにはみんなが学童疎開体験中にやったように、話し合いが1番の解決策です。そして、相手に共感して思いやりを持つことも重要です。相手はどう考え、なぜそういう考えなのか、どうすればお互いの個性の違いを乗り越えられるのかを考えましょう。そうすれば戦争もケンカもいじめもこの世界から減らす事ができるはずです。

これからみんなは成長して中学生になり、高校生になり勉強を重ねていくことでしょう。そしていろんな人たちとの出会いの中で、自分の考え方や生き方というのが、変化しながら形作られていくことでしょう。たくさんのお友達を作ってください、たくさん失敗してください、たくさん勉強してください、いろんな恋愛をしてください、とにかくいろんな経験をしてください。きっといろんな経験がみんなの個性を形作るピースになります。そして、自分と多くの人の幸せのために確かな考えを持てるようにお互いに努力していきましょう。

みんな仲良く最後まで学童疎開体験に参加してくれてありがとう。約2ヶ月の短い時間で、ミスも何度かしてしまったけど、みんなが最後までついてきてくれたおかげで、学童疎開体験を成功させることができました。これから先、意外なところでみなさんとのご縁がまたつながることがあるかと思います。一旦さようならになってしまいましたが、これからさきのどこかでまた会いましょう。

いつか、君が未来を見つめる時

公益財団法人対馬丸記念会

学芸員 堀切香鈴

大学生の頃、憧れていた先生はよくこんなことを言っていました。

「多角的なものの視点になって考える」

ひとつの物事を一方的な方向から考えるのではなく、色々な方向から考えてみる。そうすることで、自分とは違う誰かの気持ちを理解できたり、寄り添うことができる。そういう意味が詰まった言葉なのではと私は考えています。

今回の学童疎開体験でもこの言葉はいつも頭の中にあって、自分ができる精一杯の寄り添いを考え、向き合ってきたつもりです。参加した児童の皆さんの気持ちになることはもちろん、時には、疎開を体験した当時子ども達や、引率の先生の気持ちになってみたり、事前学習から本研修、事後学習まで、約3か月という短い期間でいろんなものを見方を経験することができました。

きっと私のように、一緒に学童疎開体験に参加した大人たちもそう感じていると思います。ひとりひとりと言葉を交わし交流する中で、大人ではとどり着けないような考え方やものの見方を、皆さんはたくさん持っていたからです。私たち大人も、皆さんからたくさん考え方やものの見方を教わりました。いろんな気づきを分けてくれて本当にありがとうございます。

さて、少し話は変わりますが、皆さんは学習発表会の時、将来の夢について発表していましたね。保育士になりたい。水族館の飼育員になりたい。イラストレーターになりたい。夢はまだ決まっていらないけど、平和についてこれからも考えていきたい。十人十色の様々な夢が出ましたが、どの夢にも共通するものがあります。何だかわかりますか？それは、どの夢も「平和な世界」でないと実現できないということです。ご飯を美味しく食べること、家族や友達と一緒に過ごせること、温かい布団で眠ること、この当

たり前の生活が、実は当たり前ではないことを皆さんはよく知っているはずです。将来の夢を叶えることもそれと同じなのです。学童疎開体験事業を通し、平和とは何かを学んできた皆さんだからこそ、未来を考えていく中でたくさんのことに気づいていくと思います。その時はどうか自分の考え方や視点を大切にしてください。そして、いろんなものや人に触れて心と知識のポケットをいっぱいにしてください。

「可能性」は想像よりも広く大きく、まるで海原^{うなばら}のように広がっています。ひとりひとりの未来へつながる旅路^{たびじ}が、どうか実りあるものでありますように。ひっそりと応援しています。そしていつかまた、巡り合えますように。

やーさん体験：疎開当時の食事体験

日時	レシピ
12/26 昼食	<ul style="list-style-type: none"> ●味付けご飯 <ul style="list-style-type: none"> ・角切りのサツマイモを入り ●添え <ul style="list-style-type: none"> ・香物（大根葉）
12/27 昼食	<ul style="list-style-type: none"> ●雑炊 <ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモ、大根葉入り
12/27 夕食	<ul style="list-style-type: none"> ●麦ご飯 ●大根とかぼちゃのすいとん ●ふかし芋 ●<small>たくあん</small>沢庵
12/28 昼食	<ul style="list-style-type: none"> ●かぼちゃ入りご飯 ●味噌汁（白菜入り） ●香物（白菜）



～ 本研修記録写真 ～



▲渡嘉敷港到着、本研修のスタートだ！



▲1回目の平和学習は戦争の歴史を振り返る



▲やーさん体験メニュー、お味はどうですか？



▲講師の米田英明さんから集団自決について講話を聞きました。



▲実際に集団自決の現場を見学



▲見たこと聞いたことをまとめています…



▲2日目は旧所名所めぐりから！



▲特攻艇秘匿壕の跡、手作業で掘ったんだ。



▲ケラマブルーの海！



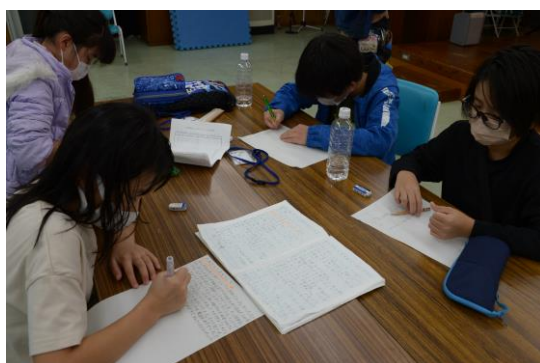
▲白玉の塔にて。メモも忘れずに。



▲夜はひーさん体験、思ったよりも寒い！



▲「ちょっと休憩ね・・・」



▲家族に想いを込めて、しからーさん体験



▲本研修最終日、まとめ作業は手強いぞ～



▲最後は交流会！音をよく聞いて…



▲とまりん到着、3日間お疲れ様でした！

時を越えて

第1回学童疎開体験事業 感想文集
令和5（2023）年 3月

発行： 公益財団法人対馬丸記念会 対馬丸記念館
〒900-0031 沖縄県那覇市若狭 1-25-37
TEL 098-941-3515

印刷： 株式会社アクセア 那覇店
〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地 2-8-7
久茂地 KM ビル 1F・2F
TEL 098-869-0740